

観/桜

今年こそ 福島市
みちのくの桃源郷 “花見山公園”へ
お出掛け下さい!



～福島に桃源郷あり～

春になると梅、花桃、レンギョウ、ボケ、モクレンなど様々な花が咲乱れ、山全体が鮮やかに彩ります。この「花見山」は普通の公園と違い、花木生産農家の方が長い年月をかけて雑木林を開墾し、生活のために花を植えたのが始まりで、その美しさが人を呼び「自然の花の美しさを一人で見るとはもったいない、この喜びを万人の者とした」との願いで、昭和34年に、個人の畑を公園として、開放してくれています。

日本を代表する写真家、故秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と毎年訪れた場所で、今では県内外から観光客に親しまれています。

【桜肉の名前の由来】

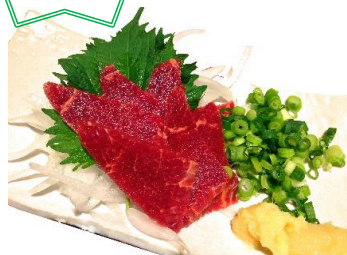
馬肉の事を別称「サクラ肉」と呼ぶ習慣があります。これにも諸説があり、どれが本当か定かではないのですが、

まずひとつとして、馬肉は桜が咲く頃、つまり4月～5月にかけてが、一番美味しいから「サクラ肉」と呼ぶ説があります。

また、古くは江戸時代の歌謡に「咲いた桜になぜ駒つなぐ」と言うのがあり、そこからきているとも、その彩鮮やかな肉の色からきているという説があります。このように別称で呼ばれたのには、江戸時代には獣肉を食べることが禁じられており、そのまま呼ぶことがはばかられたため、馬肉にも植物系の名前を付けようとしたことが基本であったと思われます。

(有)小手森建築板金工事店
代表取締役 小手森 重孝

食/桜



私が「出逢い」の大切さを感じた。昭和30年、田舎の貧乏の農家に生まれ親、家族、近所、親戚の人との「出逢い」位で、自分の存在すらわかりませんでした。小学校に入学する頃から自分と他人を意識し初め、自分にはいさぎまな事に悩み、何かを学ぶ考えを抱くようになった。

小・中学校は同級生との格差を感じ悩みましたが先生方の教えが自分の励みになりました。中学3年の時、我が家の跡継ぎを宣言したからは、農畜校定時制に進み農業と学業に励み生徒会活動にも挑戦し、背伸びする事の大切さを学びました。

卒業後は水道設備業に就職し、兼業農家として進み始めました。社会を学ぶ為、消防団、青年学級と地域の団体に加入しました。設備業は通算20年、必要な資格も取得し悔いのない人生でしたが、結婚10年後、妻の実家の塗装業に転職しました。我が人生最大の決意でありました。この時40歳、私は人との繋がりを強く感じ、今まで以上に「出逢い」の大切さを痛感した次第です。

62年の出逢い

子供を通じた活動での、保護者や学校役員、教諭との関係は今でも健在です。今では、地域の中でも何かと相談を受ける事も多くなり、できる事は頑張るようにしています。

私も塗装業界も県北支部と福島県塗装協会があり活動しています。又、日本塗装工業会も全国組織で会員として活動しています。

リフォーム組合も現在は福島、会津、白河支部の3支部ですが、多くの組合員の世代交代が進み、先代や後継者など仲間が増えていきます。また賛助会員を併せれば相当な仲間がいる事に喜びを感じます。

特に誉れな事は「現代の名工」が4人いる事です。すべて福島支部で、まず塗装業加藤誠次様(95歳)、タイル業蒲倉信六様(84歳)、板金業故小手森重勝様(享年75歳)、広告業高橋敏夫様(73歳)とすばらしい先輩たちが活躍しています。

今後においても「出逢い」を大切に、末永くお付き合いできるように頑張り、持ちつ持たれつ、社会の中で生かされれば、私は幸せです。

株式会社福島塗装店
代表取締役 加藤 良三



リフォーム がんばる

私たちは建築専門工事のプロ集団です。

設立17年目を迎える当組合は、建築物の「維持・補修や改修工事」を手がけるリフォーム事業を目的とした組合です。設立の動機は減少を続ける建設需要と独特の請負形態の改革にあります。住宅不足の解消を目的に1950年代に導入された公営住宅制度も時代遅れとなり、空き家が目立つようになってきた事、少子高齢化とともに住まいのスタイルも変化している事、これらの問題を紐解くとき必要になってくるのが建設専門工事業といわれる個々の職種の知識や経験であります。

隣の主人曰く、息子が嫁を取るのだから家を改装したいと思いい、それぞれの職種に相談に行ったら、一様に大工さんの所に行けといわれた。家を建てる訳でもないのに何故なんだと思いが結局、20年前に家を建てて貰った大工さんに相談に行っても必要な職種を手配してもらい事なきを得たという話しを聞いた。建設専門工事業といわれる職種は横の連絡が出来ていない。大工さんを頂点として縦の請負形態が常識化していて、職種間の連携が無いのである。大量生産的発想の新築需要一辺倒のときはこれで良かった。しかし、経済の成熟化に合わせて新規建設よりも既存建物の多様化に目を向ける方向に来ている今、リフォーム需要先は、専門工事業との直接対話を求めており、その技術や知識を必要としていると解ったとき、組合設立に動き出しました。福島、郡山、会津、いわき、白河という風に仲間が増えていった。同じ思いの経営者がいたのである。福島県リフォーム事業協同組合の誕生であります。

しかし、下請け業態が定着している建設業界において、専門工事業もお客様との対話が必要であり、営業も出来る専門工事業を目指すことは並大抵の事ではなく、新しいものを創り出す時のエネルギーは計り知れないものが重要です。恐る恐る、お客様との対話に入っていくと、組合という名前の信頼感の絶大さに驚かされたり、仲間同士のやり取りに同じ「元請」としての責任を要求されたり、「下請け」一辺倒だった業態から「横請け」の意識を持つことは戸惑いの連続だった様に感じます。

手探りの中から解って来たことは、組合活動は地域密着型が重要であると言う事でした。以来、支部中心の動きに変えて行きました。それぞれの地域性が大事であり、支部ごとのチームワークが重要なのです。

私たちの事業理念に「もっと身近に、そしてお客様に安心と満足」と掲げています。当たり前のように流れ作業的だった仕事が変わり始めたように感じます。自らの職種に誇りを持ちもっと知識と技術を磨きお客様に満足して頂きたい。もっとお客様との会話を楽しみたい。そんな風に考えるようになりました。どうぞ「リフォーム組合」に一声お掛け下さい。お客様とご一緒に、より満足度の高いリフォームを目指したいと考えております。

理事長 佐藤 正



空間創造のプロフェッショナルチーム
福島県リフォーム事業協同組合

